



盛岡市プレスリリース

～歴史風土に包まれた 心豊かに芸術文化が生きるまち～

令和8年2月27日

交流推進部文化国際課

市政記者クラブ加盟社 各位

## 第10回盛岡劇場「劇団モリオカ市民」公演 『MORIOKA CHRONICHLⅢ 岩山大作戦』 を開催します

第10回盛岡劇場「劇団モリオカ市民」公演実行委員会、公益財団法人盛岡市文化振興事業団及び盛岡市は、第10回盛岡劇場「劇団モリオカ市民」公演『MORIOKA CHRONICHLⅢ 岩山大作戦』を開催します。

アマチュア劇団が20以上も存在する「演劇のまち・盛岡」の特性を生かし、盛岡ならではの演劇作品を演劇以外の異分野異業種の方々を巻き込んで創り上げる市民企画が「劇団モリオカ市民」です。

今回のテーマは「岩山」。「懐かしさや思い出を求めてあの頃の自分に会いに行く」をコンセプトに、岩山に行きたい！と思わせるようなエピソードを織り交ぜ、人と人との繋がりと成長を描く、三部構成でお届けします。

記

【日時】（公演日）令和8年3月7日（土）13時30分/18時30分

3月8日（日）13時30分

（稽古日）2月28日（土）、3月1日（日）、3月3日（火）～6日（金）

※平日は19時～、土日は13時～稽古開始 ※6日（金）19時～（予定）ゲネプロ

【場所】盛岡劇場 メインホール（盛岡市松尾町3番1号）

【主催】公益財団法人盛岡市文化振興事業団  
第10回盛岡劇場「劇団モリオカ市民」公演実行委員会

【共催】盛岡市、盛岡市教育委員会、盛岡演劇協会

【後催】盛岡商工会議所、文化地層研究会、岩手日報社、IBC 岩手放送、めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、テレビ岩手、NHK 盛岡放送局、エフエム岩手、ラヂオ・もりおか

【協力】盛岡市動物公園 ZOOMO、岩山パークランド、喫茶 GEN・KI

【添付資料】チラシ、あらすじ

【宣材写真の提供】なし

【当日の取材可否】可

【問い合わせ】公益財団法人盛岡市文化振興事業団 盛岡劇場 田澤（たざわ）

TEL:019-622-2258 FAX:019-622-1910

【担当】

盛岡市 交流推進部 文化国際課 芸術文化係

担当:金野(きんの)

TEL:019-613-8465(直通)

E-mail:[bunkakokusai@city.morioka.iwate.jp](mailto:bunkakokusai@city.morioka.iwate.jp)

第10回盛岡劇場「劇団モリオカ市民」公演 MORIOKA CHRONICLE Ⅲ

# 岩山大作戦



総合演出●似内仁 演出●ペロ・シモンズ／角館信哉／夏坂俊也 ドラマドクター●高村明彦  
 脚本●ササキササ／榊原明徳／遠藤雄史 アクティングアドバイザー●くらもちひろゆき

盛岡劇場メインホール

岩手県盛岡市  
松尾町3-1

【主催】公益財団法人盛岡市文化振興事業団／第10回盛岡劇場「劇団モリオカ市民」公演実行委員会  
 【後援】盛岡商工会議所／文化遺産研究会／若手報社／IBC若手放送／めんこいテレビ／若手朝日テレビ／テレビ若手／NHK盛岡放送局／エフエム若手  
 ラヂオ・もりおか  
 【協力】盛岡市動物公園ZOOMO／若山パークランド／喫茶GEN・K1



2026

3.7 土

① 13:30~  
② 18:30~

/ 3.8 日

③ 13:30~

※各回とも開場は30分前

《チケット》前売券 | 一般 1,500円 / 高校生以下 1,000円  
 当日券 | 一般 1,800円 / 高校生以下 1,300円

※小学生以上有料、未就学児は座席確保に限り無料です。(席が必要な場合は有料)  
 ※高校生以下チケットをご購入の方は公演当日、年齢のわかる身分証をご持参ください。

公演日時指定・自由席

プレイガイド → パルクアベニュー・カワトク(〜2/28迄)  
 プラザおでっ／盛岡市民文化ホール  
 キャラホール／姫神ホール／盛岡劇場

《お問い合わせ》盛岡劇場「劇団モリオカ市民」公演実行委員会事務局 (〒020-0873 盛岡市松尾町3-1 盛岡劇場内) ☎ 019-622-2258

ある場所を訪れたとき」

ふと、思い出される記憶がありませんか？ 私たちが暮らす盛岡をテーマにする「MORIOKA CHRONICLE」は、盛岡市民に親しまれている場所に集まる記憶や歴史を立体的に浮かび上がらせる演劇です。これまでに「若手公園」「盛岡バスセンター」を取り上げました。

そして、今回は「岩山」をテーマにします。皆さんは「岩山」と聞いて、真っ先に思い浮かぶ記憶の「場所」はどこでしょうか？

展望台、パークランド、動物園、喫茶店、ゴルフ場、スキー場…

一つの場所を指しながら、よみがえる記憶の場所が違つ「岩山」。それでいながら、私たち盛岡市民にどこか懐かしさを感じさせる「岩山」。今回の「MORIOKA CHRONICLE」は、そんな「岩山」を演劇という表現を通して見つめ直します。

今回は、脚本の執筆に関わつて「岩山」に関わる方々へインタビューを行いました。その声をもとに地元で演劇活動を行っている人々と今回集まつた盛岡市民の劇団員で「岩山」の物語をつくり出す。公演当日は劇場内にいる一人一人の記憶が重なり合い、懐かしさも楽しく、そして明日への活力になる時間を共有できると思っています。「モリオカ市民」の力で築き上げられるメイド・イン・モリオカのステージにぜひご期待ください。

第10回盛岡劇場「劇団モリオカ市民」公演実行委員会

会長 遠藤雄史

〈劇団「モリオカ市民」〉

アマチュア劇団が20以上も存在する「演劇のまち・盛岡」の特性を生かし、盛岡ならではの演劇作品を、演劇以外の異分野・異業種の方々を巻き込んで創り上げる企画です。盛岡にしかない題材による地元劇作家の書き下ろし作品を、市民公募のキャスト・スタッフと地元演劇人、盛岡劇場との協働で上演しています。

〈MORIOKA CHRONICLE〉

CHRONICLEとは、英語で「年代記」の意味です。ここでは盛岡のある時代や年にフォーカスした「盛岡ならではの」出来事をテーマにしていることを意味しています。

第10回盛岡劇場「劇団モリオカ市民」公演

MORIOKA CHRONICLE II 劇団 岩山大作戦

3.7 土 / 3.8 日 13:30~ 18:30~

お問い合わせ → 盛岡劇場「劇団モリオカ市民」公演実行委員会事務局 ☎ 019-622-2258



岩手県盛岡市松尾町3-1

〈参加者〉

- 阿部浩一 佐野将司 島山凜穂
阿部智駿 猿橋勇人 藤澤葵
阿部美和 栗石三佳 藤澤幸子
石田裕平 清水有紀 古山果奈
岩崎五十六 下屋敦統太 堀井真志
岩橋舞華 関山浩子 宮田香菜
内館英光 竹鼻裕子 村井悦子
内館和子 田中清美 村上愛
小笠原信子 千葉愛 室岡良子
菊池彩香 千葉ゆかり 森敬司
駒井心響 榎下真弓 山口美智子
齋藤純礼 長澤周子 横田由美子
佐藤智子 西島唯 (五十音順)
佐藤真由美 沼田昭

〈専任スタッフ〉

- 似内仁 春日太斗 庫持
へろ・シモンズ 上野敏明 高崎美絵
角館信哉 三谷仁人 山内朋美
夏坂俊也 能登谷昂毅 すなお
ササキササ 工藤早織 築館詠子
神原明徳 中村隼太 山屋明子
遠藤雄史 平戸謙太 おおしだまこ
高村明彦 金子留美 河村睦
くらもちひろゆき 川村利希 伊藤光咲
舞姫☆ちあき☆ 菅優月 藤原さつき
古屋仁成 佐々木仁美 高橋宏臣
佐藤玲香 水井米 小野寺司
山中基雅 中村匡宏 嵯峨瞳
辛真琴 小野寺真澄



盛岡劇場 (河南公民館) 岩手県盛岡市松尾町3-1
〈タクシー〉盛岡駅から10分
〈バス〉盛岡バスセンター下車 徒歩5分
南大通り丁目下車 徒歩2分
※会場にはお客様用の駐車場がございます。ご来場の際は、公共交通機関か近隣の有料駐車場をご利用ください。

〈第10回盛岡劇場「劇団モリオカ市民」公演実行委員会〉

- 名誉会長 内館茂
会長 遠藤雄史
副会長 金野万里/倉持裕幸
委員 高村明彦/川村睦
似内仁/へろ・シモンズ
辻本恒徳/大谷陽介
佐藤博/城守まゆみ
村上秀樹
監事 大石仁雄/齋藤美希

〈事務局〉

- 事務局長 伊藤伸二
事務局次長 高橋邦夫
事務局員 田澤優紀/佐々木明奈
武田華奈/大志田千鶴子
渡邊奈津子/久保聖
姉吉芽衣

QR codes and social media links for Morioka City Theatre official X account and homepage.

第 10 回盛岡劇場「劇団モリオカ市民」公演  
MORIOKA CHRONICLE III 『岩山大作戦』 あらすじ

【オープニング】 脚本：遠藤 雄史 演出：似内 仁

真夏の猛暑に包まれた盛岡。岩山展望台に降り立ったのは、NYタイムズ紙で選ばれたこの街を調査しに来た宇宙人一家。だが、一家を最大の危機が襲う。母オメガが、特殊な力を秘めた「メガネ」を紛失したのだ。

もし地球人が拾えば、異常進化を招き地球滅亡もあり得る…。一家は正体を隠し、喫茶「GEN・KI」や動物園「ZOOMO」、そして「岩山パークランド」へと潜入捜査を開始する。誰にも気づかれず、メガネを取り戻せるか？  
地球の存亡をかけた極秘大作戦が、今、ひっそりと幕を開ける！

【第一部】 脚本：ササキササ 演出：ペロ・シモンズ

夢の途中で立ち止まった高校生・灯。もう飛べないと知ったあの日から、心の中の時間も止まっていた。

夜明け前の喫茶店で過ごす、静かな朝。誰かの言葉に触れるたび、灯は少しずつ、自分の中に残っている気持ちと向き合っていく。

やがて朝は訪れる。その光の中で、灯が見つめるものとは

【第二部】 脚本：榊原 明德 演出：角館 信哉

友人と訪れる人、夫婦で訪れる人、家族で訪れる人。猛暑の ZOOMO に様々な人々が訪れる。

「キリンって、一番大きいのに、一番低いところにいるんだね」

飼育員の高崎は今日もモヤモヤしていた。昼休みにうたた寝をしていた高崎は、知らない少女の夢を最近よく見る。…どうしてあたしの夢に出てくるの？

そこに、同僚の吉田が慌ててやって来た。どうやら何か問題が起きたようだ。高崎はモヤモヤしたまま、その問題に対処するためそこへ向かう。

【第三部】 脚本：遠藤 雄史 演出：夏坂 俊也

真夏の盛岡。「岩山パークランド」では、焦げ付くような日差しの中でスタッフが開園準備を進めていた。その中に、安定した再就職を捨て、この遊園地でのバイトを選んだ元公務員の赤石がいた。

そんな彼に、誰もいない場所から不思議な囁きが届く。

「戻しなさい…」

困惑する赤石の耳に、今度はメガネを落とした親子の困り果てた声が。赤石が拾い上げた一つのメガネが、止まっていた彼の時間を動かしていく。